

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称 (製品名)	Nano Dry Lubricant	
会社名	Nano ProMT LLC	
住所	7427 Matthews-Mint Hill Road, Suite 201 Charlotte, NC 28227	
担当者 (作成者)	Chris Hunter	
電話番号	情報なし	
緊急連絡電話番号	(704) 408-3641	
Part No.	NDT11D	
推奨用途及び使用上の制限		
推奨用途	潤滑油	料金コード 2905.120050
整理番号	NDT11D	

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性

エアゾール 区分1

健康に対する有害性

皮膚腐食性及び皮膚刺激性 区分2
 眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性 区分2
 特定標的臓器毒性, 単回ばく露 区分1 (中枢神経系, 全身毒性)
 特定標的臓器毒性, 単回ばく露 区分3 気道刺激性
 特定標的臓器毒性, 単回ばく露 区分3 麻酔作用

環境に対する有害性

吸引性呼吸器有害性 区分1
 水生環境有害性(急性) 区分2
 水生環境有害性 (長期間) 区分2

GHSラベル要素

絵表示



注意喚起語

危険

危険有害性情報

極めて可燃性又は引火性の高いエアゾール。高圧容器：熱すると破裂のおそれ。飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ。皮膚刺激。強い眼刺激。呼吸器への刺激のおそれ。眠気又はめまいのおそれ。生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い。臓器 (中枢神経系, 全身毒性) の障害。長期にわたる、又は反復暴露による臓器 (血液系) の障害。長期継続的影響によって水生生物に毒性。

注意書き

安全対策

子供の手の届かないところに置くこと。使用前にラベルをよく読むこと。使用前に取扱説明書を入力すること。全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。裸火又は他の着火源に噴霧しないこと。使用後を含め、穴を開けたり燃やしたりしないこと。ミスト又は蒸気を吸入しないこと。取扱い後はよく洗うこと。この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。環境への放出を避けること。保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

応急措置

医学的な助言が必要なときには、製品容器やラベルを持っていくこと。飲み込んだ場合：直ちに医師に連絡すること。無理に吐かせないこと。皮膚に付着した場合：多量の水と石けん (鹼) で洗うこと。吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師に連絡すること。皮膚刺激が生じた場合：医師の診断/手当てを受けること。眼の刺激が続く場合：医師の診断/手当てを受けること。汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。漏出物を回収すること。

保管	換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。 施錠して保管すること。 日光から遮断し、50℃以上の温度にばく露しないこと。
廃棄	内容物 / 容器を地域 / 地方 / 国 / 国際規則に従って廃棄すること。
GHS分類に該当しない他の危険有害性	知見なし。
その他の情報	混合物の33.31 % は急性経口毒性未知の成分である。 混合物の33.31 % は急性経皮毒性未知の成分である。 混合物の33.31 % は急性吸入毒性未知の成分である。 混合物の33.31 % は水生環境に対する急性危険有害性未知の成分である。 混合物の33.31 % は水生環境に対する長期にわたる危険有害性未知の成分である。

NOTE: This product is a consumer product and is labeled in accordance with the US Consumer Product Safety Commission regulations which take precedence over OSHA Hazard Communication labeling. The container label may not include the OSHA label elements listed in this document. Always carefully review the entire SDS and the product label prior to use in the workplace.

重要な徴候及び想定される非常事態の概要

重要な兆候

吸引すると肺浮腫と肺炎を起こす可能性がある。 眠気やめまいのおそれ。 昏睡。 頭痛。 吐き気、嘔吐。 行為変化 運動機能を弱める。 重度の眼刺激。 症状には、刺すような痛み、流涙、充血、はれ及び眼のかすみなどがあります。 呼吸器への刺激のおそれ。 皮膚刺激性 充血と痛みを起すことがある。 長期にわたる暴露により慢性影響をうけることがある。

想定される非常事態の概要

エアゾール 与圧内容物。
与圧容器は熱や炎に暴露すると爆発する恐れがあります。 飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ。 臓器の障害。 眠気やめまいのおそれ。 強い眼刺激。 皮膚刺激。 呼吸器系に刺激を起こすことがある。 生殖に対する危険有害性の可能性。 水路に排出されると環境に対して危険である。 これはラベルの指示に従って使用すれば消費者にとって安全な、消費者向けケア用品である。 多くの消費者製品と同様に、長期にわたるまたは繰り返しての皮膚接触、あるいは眼への接触により発赤、皮疹および/または膨潤を起こす人が少数存在する。

3. 組成、成分情報

化学物質・混合物の区別 混合物

成分	CAS番号	官報公示整理番号			含有量 (%)
		化審法	安衛法		
イソプロピルアルコール	67-63-0	(2)-207	(2)-207, 2-(8)-319		40 - 45
ヘプタン	142-82-5	(2)-7	(2)-7		20 - 25
報告量を下回るその他の成分					35 - 40
化学式	C3-H8-O (67-63-0), C7-H16 (142-82-5)				

4. 応急措置

吸入した場合	空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 気分が悪いときは医師に連絡すること。
皮膚に付着した場合	汚染された衣服を脱ぐ。 多量の水で洗うこと。 皮膚刺激が生じた場合：医師の診断/手当てを受けること。 汚染された衣類を再使用する場合には洗濯をすること。
目に入った場合	直ちに多量の流水で最低15分間眼を洗浄する。 コンタクトレンズをしていて容易に取り外せる場合は取り外す。 その後も洗浄を続けること。 刺激が強まったり続く場合には医師の手当てを受ける。
飲み込んだ場合	直ちに医師に連絡すること。 口をすすぐこと。 嘔吐させない。 もし嘔吐が起こったら、胃からの嘔吐物が肺に入らないよう頭部を下げる。
急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状	吸引すると肺浮腫と肺炎を起こす可能性がある。 眠気やめまいのおそれ。 昏睡。 頭痛。 吐き気、嘔吐。 行為変化 運動機能を弱める。 重度の眼刺激。 症状には、刺すような痛み、流涙、充血、はれ及び眼のかすみなどがあります。 呼吸器への刺激のおそれ。 皮膚刺激性 充血と痛みを起すことがある。 長期にわたる暴露により慢性影響をうけることがある。
応急措置をする者の保護	ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師の診断/手当てを受けること。 気分がすぐれないときは医療処置についてアドバイスを求める。(可能ならばラベルをみせる) 医療スタッフに物質が何であるかを伝え、自身の保護措置にも気をつけさせる。 この安全データシートを担当医に見せる。

医師に対する特別な注意事項

一般的な処置および症状にあわせた適切な治療を施す。被災者の観察を続ける。症状は遅れて出てくることがある。

5. 火災時の措置

消火剤

耐アルコール泡。粉末。二酸化炭素 (CO₂)。

使ってはならない消火剤

消火に水噴射をしない。これは火災を拡散することになる。

火災時の特有の危険有害性

内容物は加圧下に置く。与圧容器は熱や炎に暴露すると爆発する恐れがあります。火災の際は健康に有害なガスが生成されることがある。

特有の消火方法

危険でなければ、火災区域から容器を移動させる。蒸気圧の上昇を回避するため容器を水で冷却しなければならない。貨物保管区域の大規模な火災に対してはできれば無人のホース保持機または遠隔操作ノズルを使用する。もしそれができなければ避難して火が燃え尽きるまで待機する。

消火を行う者の保護

消防士は、防火衣、フェースシールド付きヘルメット、手袋、ゴムブーツを含む標準的な防護衣を着用しなくてはならない。密閉された場所では、自給式呼吸器 (SCBA) も使用する。

一般的な火災の危険性

極めて可燃性又は引火性の高いエアゾール。

特定の消火方法

通常の消火手順を用いる。影響を受けた他の物質の有害性を考慮する。危険でなければ、火災区域から容器を移動させる。火災や爆発の場合は、煙霧を吸い込まない。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

関係者以外の立ち入りを禁止する。こぼれやもれが起きている場所から関係者以外を遠ざけ、風上に避難させる。清掃中は適切な保護具および防護服を着用する。ミスト又は蒸気を吸入しないこと。適切な保護衣を着用せずに、壊れた容器または流出物に触らない。閉鎖された場所に入るときは事前に換気を行う。流出が著しくて回収できない場合は、現地当局に通告すべきである。人体の保護具については第8項を参照。

環境に対する注意事項

環境への放出を避けること。全ての環境流出に該当する管理または監視要員に通知すること。安全を確認してから、もれやこぼれを止める。下水や水路、地面に排出しない。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

より詳細な情報は、SDS (製品安全データシート) を参照下さい。危険でなければ、漏れを止める。漏洩を修復不可能な場合はシリンダーを安全で開放された場所に移す。可燃性物質 (木材、紙、油など) を流出物から遠ざける。製品を排水施設に流してはならない。パーミキュライト、乾いた砂または土に吸収し、容器に収納する。製品回収後、その付近を水で洗い流す。

少量の漏出：吸収材 (例：布、フリース) で拭き取る。残った汚染を取り去るには、床を徹底的に清掃すること。廃棄物処理については本SDS第13項を参照。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策 (局所排気、全体換気等)

加圧容器：使用後を含め、穴を開けたり燃やしたりしないこと。容器を切削、溶接、はんだ付け、穴開け、研削したり、あるいは熱、炎、火花やその他の発火源に暴露してはならない。製品を取り扱う時に使用するすべての道具は、接地しておく必要がある。換気のよい場所でのみ取り扱う。

安全取扱い注意事項

使用前に取扱説明書を入手すること。全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。裸火、熱源または発火源の近くで、取り扱ったり、保管したり、開けてはいけない。直射日光に当たないようにする。加圧容器：使用後を含め、穴を開けたり燃やしたりしないこと。スプレーボタンが失われていたり不良品の場合には使用してはならない。火災や白熱物質に向けてスプレーしてはいけない。スプレーの使用またはスプレーした表面が完全に乾燥するまでは禁煙。ミスト又は蒸気を吸入しないこと。眼、皮膚、衣服への接触を避ける。長時間の接触を避ける。使用中は飲食や喫煙をしない。妊娠中または授乳中の女性はこの製品を取り扱ってはならない。もし可能であれば、閉鎖系で取り扱うこと。取扱い後は手をよく洗うこと。環境への放出を避けること。産業衛生に気を配る。空の容器を再使用しない。本SDS第8項で推奨されている個人用保護具を使用すること。

接触回避

強酸化剤。イソシアナート類。酸。塩素。より詳しい情報については第10項を参照。

適切な衛生対策

あらゆる医学的監視要件を遵守すること。取扱中は禁煙。本物質を取り扱った後、飲食や喫煙をする前に手を洗うなど、常に適切な衛生措置をとる。汚染物質を取り除くために定期的に作業衣と保護具を洗う。

保管 安全な保管条件	施錠して保管すること。 高圧ガスタンク。日光を避けまた50℃ / 122華氏温度を上回る温度下に暴露しないようにして下さい。 缶が爆発する可能性があるので熱にさらしたり120°F/49℃を超える環境下で保管したりしてはならない。 穿孔、焼却、圧潰してはならない。 本物質は静電荷を蓄積し、火花や発火源を引き起こす恐れがある。 裸火、熱またはその他の発火源の近くで取り扱ったり、保管したりしない。 直射日光が入らない、涼しく乾燥した場所に貯蔵すること。 子供の手の届かないように保管すること。 混雑危険物質 (本SDS第10項を参照) から離して保管すること。
安全な容器包装材料	加圧容器：使用後を含め、穴を開けたり燃やしたりしないこと。 物質を移送する時、容器を接地およびアースすること。 容器を切削、溶接、はんだ付け、穴開け、研削したり、あるいは熱、炎、火花やその他の発火源に暴露してはならない。 スプレーボタンが失われていたり不良品の場合には使用してはならない。 元の容器に密閉して保管する。 空の容器を再使用しない。

8. 暴露防止及び保護措置

許容濃度 (暴露限界値) および管理濃度

作業環境評価基準(昭和63年9月1日号外、労働省告示第79号)別表

成分	タイプ	数値
イソプロピルアルコール (CAS 67-63-0)	管理濃度	200 ppm

日本産業衛生学会 - 許容濃度

成分	タイプ	数値
イソプロピルアルコール (CAS 67-63-0)	最大許容濃度	980 mg/m3
ヘプタン (CAS 142-82-5)	TWA	400 ppm 820 mg/m3 200 ppm

ACGIH

成分	タイプ	数値
イソプロピルアルコール (CAS 67-63-0)	STEL	400 ppm
ヘプタン (CAS 142-82-5)	TWA	200 ppm
	STEL	500 ppm
	TWA	400 ppm

生物学的限界値

ACGIH生物学的許容値

成分	数値	決定要因	標本	サンプル採取時間
イソプロピルアルコール (CAS 67-63-0)	40 mg/l	アセトン	尿	*

* - サンプルリングの詳細については原資料をご参照下さい。

設備対策

適切な全体換気 (換気回数1時間に10回程度) を行わなければならない。換気回数は状況に合わせる。暴露限界値が設定されている場合は、密閉装置、局所排気装置その他の装置により、空気中濃度を暴露限界値以下に保つ。暴露限界値が設定されていない場合も、空気中の濃度を適切な濃度以下に抑える。洗眼設備を設置する。 眼の洗浄用噴水と緊急用シャワーをお勧めします。

保護具

呼吸器の保護具	有機蒸気吸収缶付き全面形面体化学用マスク。 有機蒸気吸収缶付き全面形面体化学用マスク。
手の保護具	適した耐化学薬品性の手袋を着用しなければならない。
目の保護具	有機蒸気吸収缶付き全面形面体化学用マスク。
皮膚及び身体の保護具	適切な耐化学薬品性の衣服を着用する。 不浸透性エプロンの使用が望ましい。

9. 物理的及び化学的性質

外観	または
物質の状態	液体。
形状	エアゾール
色	濃い灰色
臭い	Hydrocarbon like

pH	データなし。
融点・凝固点	-90.6 °C (-131.08 °F) 推定値
沸点、初留点と沸騰範囲	82.5 °C (180.5 °F) 推定値
引火点	-4.0 °C (24.8 °F) タグ密閉式
燃焼性 (固体、ガス)	該当しない。
燃焼又は爆発範囲	
燃焼範囲 - 下限(%)	2.5 % 推定値
燃焼又は爆発範囲 - 上限	12 % 推定値
爆発下限界 (%)	データなし。
爆発上限界 (%)	データなし。
蒸気圧	60.78 hPa 推定値
蒸気密度	データなし。
比重 (相対密度)	0.76 推定値
溶解度	
水溶性	データなし。
n-オクタノール / 水分分配係数	データなし。
自然発火温度 (発火点)	399 °C (750.2 °F) 推定値
分解温度	データなし。
粘度 (粘性率)	データなし。
その他の情報	
密度	6.32 lbs/gal 推定値
爆発性状	爆発物でない。
フレイム拡張	> 17 中の
燃焼性(フラッシュバック)	なし
燃焼熱 (NFPA 30B)	20.27 キジュール / グラム 推定値
酸化能力	酸化性でない。
揮発物濃度	44 % 推定値
揮発性有機化合物	> 96 % 推定値

10. 安定性及び反応性

反応性	本製品は、通常の使用、保管および輸送条件下では安定かつ非反応性である。
化学安定度	通常状態で安定。
危険有害反応可能性	一般的な使用条件下では、危険な反応は知られていない。
避けるべき条件	引火点を超える温度を避ける。混触危険物質との接触。
混触危険物質	酸。強酸化剤。イソシアナト類。塩素。
危険有害な分解生成物	危険有害な分解生成物は知られていない。

11. 有害性情報

急性毒性	飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ。
皮膚腐食性及び皮膚刺激性	皮膚刺激。
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性	強い眼刺激。
呼吸器または皮膚感作性	
呼吸器感作性	呼吸器感作性物質でない。
皮膚感作性	この製品は、皮膚感作を引き起こすとは思われない。
生殖細胞変異原性	本製品あるいは製品中に0.1%以上含有する成分に変異原性または遺伝子毒性があることを示すデータはない。
発がん性	
ACGIH発がん性物質	
イソプロピルアルコール (CAS 67-63-0)	A4 ヒトへの発がん性を分類できない。
生殖毒性	生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い。

特定標的臓器毒性 (単回暴露)	臓器 (中枢神経系, 全身毒性) の障害。呼吸器への刺激のおそれ。眠気やめまいのおそれ。
特定標的臓器毒性 (反復暴露)	長期にわたる、又は反復暴露による臓器 (血液系) の障害。
吸引性呼吸器有害性	飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ。

12. 環境影響情報

環境影響データ

成分	種	試験結果
イソプロピルアルコール (CAS 67-63-0)		
水生		
魚類	LC50	ブルーギル (レボミス・ マクロキルス) > 1400 mg/l, 96 時間
ヘプタン (CAS 142-82-5)		
水生		
魚類	LC50	モザンブークティラピア 375 mg/l, 96 時間
生態毒性	長期継続的影響によって水生生物に毒性。	
残留性/分解性		
生体蓄積性		
生体内蓄積の可能性		
オクタノール / 水分配係数 log Kow		
イソプロピルアルコール	0.05	
ヘプタン	4.66	

土壤中の移動性	本生成物のデータはありません。
オゾン層への有害性	データなし
他の有害影響	この製品は光化学オゾンを生成する可能性のある揮発性の有機化合物を含有している。

13. 廃棄上の注意

適用され規則に準拠して廃棄しなければならない。

残余廃棄物	現地の規定に従い、処分する。空の容器やライナーには製品の残余物が残っている可能性がある。本物質とその容器は安全な方法で廃棄しなければならない (「廃棄上の注意」 参照) 。
汚染容器及び包装	製品の残余物が残っているかもしれないので、容器が空になった後もラベルの警告に従う。空の容器は、リサイクルまたは廃棄のために、承認された廃棄物処理施設に運ばなければならない。空の容器を再使用しない。
地域の廃棄規制	廃棄物処理法の許可を受けた業者に処理を委託する。内容物は加圧下に置く。穿孔、焼却、圧潰してはならない。本物質を下水 / 水道供給経路に流入させてはならない。薬剤または使用済容器で、池、水路、溝を汚染しないでください。内容物 / 容器を地域 / 地方 / 国 / 国際規則に従って廃棄すること。自社で排水処理装置を所有していない場合は、全量回収の上産業廃棄物処分業の許可を受けた業者に、産業廃棄物管理票(マニフスト)を添えて、処理を委託する。

14. 輸送上の注意

IATA

UN number	1950
UN proper shipping name	Aerosol, Flammable
Transport hazard class(es)	
Class	2.1
Subsidiary risk	-
Packing group	Not available.
Environmental hazards	Yes
ERG Code	9L
Special precautions for user	Read safety instructions, SDS and emergency procedures before handling.
Other information	
Passenger and cargo aircraft	Allowed with restrictions.
Cargo aircraft only	Allowed with restrictions.

IMDG

UN number	1950
UN proper shipping name	Aerosols (Isopropyl Alcohol), MARINE POLLUTANT

Transport hazard class(es)

Class 2.1

Subsidiary risk -

Packing group Not available.

Environmental hazards

Marine pollutant Yes

EmS F-E, S-E

Special precautions for user Read safety instructions, SDS and emergency procedures before handling.

MARPOL73/78条約の附属書II及

びIBCコードによるバルク輸送

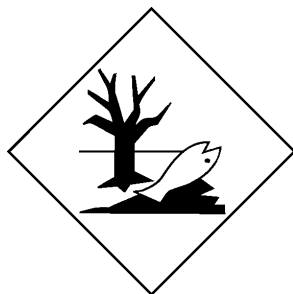
一般情報

IMDGに定める海洋汚染物質。

IATA; IMDG



海洋汚染物質



国内規制

国内輸送については 1 5 章の規制に従うこと。

15. 適用法令**労働安全衛生法****有機則****第二種有機溶剤**

イソプロピルアルコール

通知対象物

N-ヘプタン

別表第9 政令番号 526

20 - 25 %

プロピルアルコール

別表第9 政令番号 494

40 - 45 %

表示対象物

イソプロピルアルコール

40 - 45 %

N - ヘプタン

20 - 25 %

毒物及び劇物取締法**特定毒物**

該当せず。

毒物

該当せず。

劇物

該当せず。

化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律**第一種特定化学物質**

該当せず。

第二種特定化学物質

該当せず。

監視化学物質

該当せず。

優先評価化学物質

イソプロピルアルコール

届出不要物質

該当せず。

化学物質排出把握管理促進法

特定第一種指定化学物質(物質名、政令番号、含量)

該当せず。

第一種指定化学物質(物質名、政令番号、含量)

該当せず。

第二種指定化学物質(物質名、政令番号、含量)

該当せず。

船舶安全法・危規則

高压ガス

航空法・施行規則

高压ガス

火薬類取締法

該当せず。

海洋汚染防止法

アルカン(炭素数が六から九までのもの(ヘキサンを除く.)及び炭素 X類
数が六から九までのものの混合物に限る.)

イソプロピルアルコール

Z類

16. その他の情報

引用文献

ACGIH Documentation of the Threshold Limit Values and Biological Exposure Indices

HSDB® - Hazardous Substances Data Bank

IARC発がん性評価モノグラフ

National Toxicology Program (NTP) Report on Carcinogens

日本産業衛生学会、許容濃度等の勧告

日本化学工業協会 GHS対応ガイドライン、2012年6月

JIS Z 7252 : 2014 GHS に基づく化学品の分類方法

JIS Z 7253 : 2012 GHS に基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法 - ラベル、作業場内の表示及び安全データシート (SDS)

本製品安全データシートの内容は、発行時点において、正確を期して記載しております。記載された情報は、安全な取り扱い、使用、処理、保管、輸送、廃棄、排出の手引きとして作成されたものであり、保証または品質の仕様ではありません。この情報は、記載された特定の物質にのみ関連したものであり、そのように明記されていない限りは、この物質が他の物質と一緒に使われた場合やその他の処理には当てはまりません。

改訂情報

化学物質等及び会社情報: 製品確認

危険有害性の要約: 応急措置

危険有害性の要約: その他の情報

物理及び化学的性質: 複数特性

GHS: 分類